



事前研修(5/12) 第1回事前研修

ワークショップ ～「災」「復興」「私たち」～

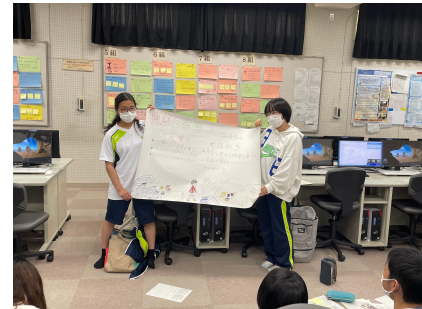
参加者同士の自己紹介、ファシリテーション技術、そして今回の活動で何を学ぶのか、ワークショップを行いました。題は「災」「復興」「私たち」と設定しました。まずはグループ内で「災い」とは何かのすり合わせからはじめて、そこから「復興」と「私たち」の関連を1つの模造紙に作成しました。非常にハイレベルなワークショップを生徒たちはこなしました。



Aチーム活動の様子



Cチーム活動の様子



Bチーム発表の様子

生徒たちの振り返り・感想

2年小島

今回のプロジェクトに参加する他の春日丘の人たちと関わるのは初めてだったので、少し緊張もありましたが、みんながこのプロジェクトにどのような思いで望んでいるかや、他の学年の人たちの考え方を知ることができて、すでにこのプロジェクトに参加して良かったと思いました。グループごとに別れて模造紙を完成させる課題は、グループのメンバーと案を出し合って協力できたのが楽しめたと、良かったと感じました。でも、災い、復興、私たちという抽象的なキーワードから模造紙を作るのは、とても難しかったです。次回からは、もっと自分の考えを周りの人たちに伝え、周りの人たちの意見もたくさん聞いて取り組めたらいいなと思います。そして、他の学年の人たちや、他の学年の人たちとも関わる機会を増やせたらいいなと思います。

1年徳見

今回、東北プロジェクトに参加するメンバーと話し合ってみて、少し散らかり気味だった自分の考えをまとめることができたように思う。先生が「高校生にできることなんて、ほとんどないのだから、逆に学ばせてもらっているというつもりでいてください」という言葉が印象に残っている。自分の参加動機について思い返してみると、確かに誰かを救いたいというたいそうな理由でなく、最終的に自分のためになるという考えから参加しようとしていたことに気がついた。利己的ではないかという人もいるかもしれないが、「情けは人のためならず」という言葉があるように、結局は自分に返ってくるのだから、はじめからそのつもりで挑んでもいいのではないかと思った。また、意見がまとまらず沈黙する時間が長くなったため、同じような機会があれば、今度はもっと積極的に意見を出していきたいと思う。